

資料編

1 参考・引用文献

第1章第1節

- 比企 忠、1891：美濃国根尾谷陥落の略況。地学雑誌，3，585-589。
- 小藤文次郎、1892：濃尾大地震ノ震源。東洋学芸雑誌，9，147-158。
- Milne, J. and Burton, W. K., plates by K. Ogawa, 1892, 1893 for 2nd Edition: The Great Earthquake in Japan, 1891. Lane, Crawford & Co., Yokohama, Japan. 72.
- 大森房吉、1893-94：濃尾地震概報。地質学雑誌，1，42-55, 99-102, 153-161, 215-219, 235-262, 311-322, 425-437。
- Koto, B. 1893: On the cause of the great earthquake in central Japan, 1891. Jour. Coll. science, Imp. Univ. Japan, 5, 296-353.
- 大森房吉、1894：濃尾地震概況。明治二十四年十月二十八日大震報告，48-88。
- 岐阜県岐阜測候所、1894：明治二十四年十月二十八日大震報告。岐阜測候所刊，193。
- 大森房吉、1900a：物体の転倒および移動について。震災予防調査会報告，32，19-38。
- 大森房吉、1900b：明治二十四年十月二十八日濃尾大地震ノ調査(第二回報告)。震災予防調査会報告，32，67-87。
- 大森房吉、1910：地震ノ種類ニ就キテ。防災予防調査会報告，68甲，3-19。
- Imamura, A. 1930：Topographical changes accompanying earthquakes or volcanic eruptions. Publ. Earthq. Inv. Comm. in Foreign Languages, 25, 1-143.
- 飯田汲事・青木治三、1959：重力異常と地下構造，特に濃尾平野の場合について。測地学会誌，5，88-91。
- 杉崎隆一・柴田賢、1961：地下水の地球化学的研究(第1報)－濃尾平野の地下構造と滞水層の分布－。地質学雑誌，67，335-345。
- 村松郁栄、1963：濃尾地震激震域の震度分布および地殻変動。岐阜大学学芸学部研究報告(自然科学)，3，202-224。
- 別所文吉、1967：山嶽の静動および環根尾断層地質構造図。金沢大学教育学部地学教室，地質彙報，初号，364頁。
- 林 上、1971：濃尾地震にともなう根尾谷断層の水平変位量－根尾村中地区の場合－。地理学評論，44，875-877。
- 松田時彦、1974：1891年濃尾地震の地震断層。地震研究所研究速報，13，85-126。
- 村松郁栄、1976：根尾谷断層と濃尾地震。地質学論集，12，117-127。
- Mikumo, T. and Ando, M. 1976：A search into the faulting mechanism of the 1891 great Nobi earthquake Jour. Phys. Earth, 24, 63-87.
- 愛知県防災会議地震部会、1979：明治24年(1891年)10月28日濃尾地震の震害と震度分布，304。
- 活断層研究会、1991：日本の活断層－分布図と資料。東京大学出版会，437。
- 野村倉一〔村松郁栄監修〕、1991：断層写真集：根尾谷断層の今昔－濃尾地震から100年。教育出版文化協会，45。
- 岡田篤正、1991：濃尾地震と根尾谷断層－巡検案内－。断層研究資料センター，66。
- 岡田篤正・松田時彦、1992：根尾村水鳥および中付近における根尾谷断層の第四紀後期の活動性。地学雑誌，101，19-37
及び口絵写真iii - iv。
- 佐藤比呂志・岡田篤正・松田時彦・隈元 崇、1992：根尾谷断層水鳥断層崖のトレンチ壁面の地質。地学雑誌，101，555-572。及び口絵1。
- 村松郁栄・松田時彦・岡田篤正、1992：濃尾地震と根尾谷断層－地下観察館の案内－。岐阜県根尾村教育委員会，32。
- 岡田篤正、1987：濃尾地震断層系根尾谷断層〔巡検資料〕，活断層研究，4，71-90。
- 村松郁栄・梶田登雄・鈴木静枝・杉村新、1964：水鳥断層の構造。岐阜大学学芸学部研究報告(自然科学)，3，308-317。
- 岡田篤正・渡部満久・安藤雅孝・畑為成・平野信一、1992：濃尾活断層系から発生した古地震の考察－梅原断層のト

- レンチ調査一. 地学雑誌, 101, 1-18.
- Pollitz, F.F. and Sacks I.S.1944: Fault model of the 1891 Nobi earthquake from historic triangulation and leveling, J. Phys. Earth, 42, 1-43.
- 愛知県、1998：「平成9年度地震関係基礎調査交付金 岐阜—一宮断層帯及び養老—桑名—四日市断層帯に関する調査成果報告書」. 118.
- 須貝俊彦・杉山雄一、1998：大深度反射法. 地震探査による濃尾平野の活構造調査. 地質調査所速報, no. EQ/98/1 (平成9年度活断層・古地震研究調査概要報告書) , 55 - 65.
- 栗田泰夫・荻谷愛彦・奥村晃史、1999：古地震調査にもとづく1891年濃尾地震断層系のセグメント区分. no. EQ/99/3, 115-130.
- 栗田泰夫、1999：日本の地震断層におけるセグメント構造とカスケード地震モデル(試案). no. EQ/99/3, 275-284.
- 司宏俊・翠川三郎、1999：断層タイプ及び地盤条件を考慮した最大加速度・最大速度の距離減衰式, 日本建築学会構造系論文集, 523, 63-70.
- 愛知県、2000：濃尾平野の地下構造調査. 第1回堆積平野地下構造調査成果報告会予稿集, 61 - 70.
- 産業技術総合研究所、2001：温見断層のトレンチ調査(福井県大野市温見地区). 地震予知連絡会会報, 66, 376-379.
- 吉岡敏和・栗田泰夫・下川浩一・石本裕己・吉村美義・松浦一樹、2001：濃尾地震断層系・温見断層の活動履歴調査. 活断層・古地震研究成果報告, no. 1, 産業技術総合研究所地質調査総合センター, 97 - 105.
- 村松郁栄・松田時彦・岡田篤正、2002：濃尾地震と根尾谷断層帯—内陸最大地震と断層の諸性質—.
- 杉崎隆一・柴田賢、2003：岐阜—一宮断層の再評価—平野部における断層の認定における問題点— 地震, 56, 281-296.
- Nakano, M., Miyauchi J. and Yamaoka, K. submitted in 2004:A new model for the fault beneath sedimentary basin in the 1891 Nobi earthquake. Earth Planet Space.
- 村松郁栄、1983：濃尾地震による濃尾平野の住宅被害率分布, 岐阜大学教育学部研究報告(自然科学) , 7, 867-882.
- 片山逸朗、1893：濃尾震誌, 241.
- 三雲健・安藤雅孝、1975：濃尾地震の解析的再現, 科学, 岩波書店, 45, 50-58.
- 村松郁栄、2006：濃尾震災—明治24年内陸最大の地震, 古今書院.

第1章第2節2

- 1) '91中部国際防災の10年事業実行委員会、1991：災害写真集 濃尾地震から100年今、防災を考える, 建設省中部地方建設局, 46.
- 2) 赤城正雄、1974：明治大正日本砂防工事々績ニ徴スル工法論(復刻版), 全国治水砂防協会.
- 3) 岐阜縣、1981：岐阜縣治水史(上巻)昭和28年3月(復刻版), 大衆書房, 1003.
- 4) 岐阜縣、1981：岐阜縣治水史(下巻)昭和28年3月(復刻版), 大衆書房, 958.
- 5) 岐阜県、1984：岐阜県林業史(上巻), 岐阜県山林協会, 678.
- 6) 岐阜県、1985：岐阜県林業史(中巻), 岐阜県山林協会, 708.
- 7) 岐阜県、1987：岐阜県林業史(下巻), 岐阜県山林協会, 828.
- 8) 岐阜県、1991：岐阜県下震災景況—明治24年濃尾震災報告書— 明治24年(復刻版), 岐阜県郷土資料研究協議会,
- 9) 岐阜県、1995：岐阜県の活断層, 岐阜県, 20.
- 10) 岐阜県、2005：岐阜県森林・林業統計書 平成15年度版, 岐阜県農山村整備局, 155.
- 11) 岐阜県博物館、1990：輪中と治水, 岐阜県博物館友の会, 49.
- 12) 岐阜県歴史資料館、1996：THE GREAT NOBI EARTHQUAKE 1891 濃尾大震災の教訓, 岐阜県歴史資料保存協会, 113. , 岐阜県歴史資料館、2005：THE GREAT NOBI EARTHQUAKE 1891 濃尾大震災の教訓 復刻版, 岐阜県歴史資料館.
- 13) 岐阜新聞・岐阜放送、1991：写真でみる濃尾震災—実態とその復興—, 岐阜新聞社, 171.
- 14) 岐阜測候所、1894：明治24年10月28日大震報告, 岐阜縣岐阜測候所, 193.
- 15) 岐阜測候所、1993：岐阜縣水害要録 大正14年4月(復刻版), 岐阜県郷土資料研究協議会, 62.
- 16) 岐阜地方気象台編、1996：岐阜県災異誌 昭和40年3月(復刻版), 岐阜県郷土資料研究協議会, 122.
- 17) 細井正延、1973：愛知県小原村における山崩れについて, 昭和47年度文部省科学研究費成果(昭和47年7月豪雨災

害の調査と防災研究) , 113-115.

- 18) 飯田汲事、1979：明治24年(1891年)10月28日濃尾地震の震害と震度分布，愛知県防災会議地震部会，304.
- 19) 今村隆正・井上公夫、2004：防災活動に捧げた金原明善の生涯-特に濃尾地震(1891)後の現地調査写真の紹介-，歴史地震，72-29.
- 20) 上林好之、1999：日本の川を甦らせた技師デ・レイケ，草思社，350.
- 21) 建設省中部地方建設局監修、1983：木曾三川 その治水と利水，国土開発調査会，148.
- 22) 建設省中部地方建設局越美山系砂防工事事務所企画、1999：越美山系の地震と土砂災害 濃尾地震(M=8.0)とその後の土砂移動，建設省中部地方建設局越美山系砂防工事事務所，28.
- 23) 木曾三川治水百年のあゆみ編集委員会、1995：木曾三川治水百年のあゆみ，建設省中部地方建設局，1156.
- 24) 国土交通省中部地方整備局多治見工事事務所企画、2003：家財を投げ打ち国土づくりに邁進した金原明善の生涯，砂防広報センター，59.
- 25) 村松郁栄監修、1978：濃尾地震と根尾谷断層，教育出版文化協会.
- 26) 村松郁栄・松田時彦・岡田篤正、2002：濃尾地震と根尾谷断層帯-内陸最大地震と断層の諸性質-，古今書院，340.
- 27) 名古屋市防災会議地震対策専門委員会、1978：濃尾地震文献目録，名古屋市，136.
- 28) 根尾村、1980：根尾村史，根尾村，1003.
- 29) 尾張安治・駒村富士弥、1965：新潟地震による岩船地方の山腹崩壊について，新砂防，58，28-35.
- 30) 田畑茂清・原 義文・井上公夫、1999：濃尾地震(1891)に起因した土砂崩壊の実態，砂防学会誌，52(3)，24-33.
- 31) 東海三県地盤沈下調査会編、1985：濃尾平野の地盤沈下と地下水，名古屋大学出版会，245.
- 32) 塚本良則、1998：森林・水・土の保全 湿潤変動帯の水文地形学，朝倉書店，138.
- 33) 宇佐美龍夫、1996：新編 日本被害地震総覧，東京大学出版会，493.
- 34) 山口伊佐夫・川邊 洋、1982：地震による山地災害の特性，新砂防，125，2-15.

第2章第1節

明治震災輯録，木沢成肅、山羽義彦，明治24年

方県郡黒野高等尋常小学校震災小誌，河田元次郎，明治25年

濃尾震災誌，片山逸郎，明治26年

大震報告(明治二十四年十月二十八日)，岐阜県岐阜測候所，明治27年

羽島市史 第2巻 史料六，羽島市史編纂委員会，昭和41・43年

岐阜県史通史編 近代上・中・下，岐阜県，昭和42～47年

新修大垣市史 通史編二、史料編，大垣市，昭和43年

岐阜大学教育学部郷土資料(8)，岐阜大学教育学部，昭和52年

濃尾地震(明治24)のアンケート調査報告，岐阜県・愛知県

谷汲村史，谷汲村，昭和52年

岐阜市史 通史編近代 史料編近代一・二，岐阜市，昭和52～56年

根尾村史，根尾村，昭和55年

ふるさと笠松，ふるさと笠松編集委員会，昭和58年

濃尾震災100年記念誌，濃尾震災100年記念誌編集委員会，平成3年

学校誌にみる濃尾震災，岐阜県歴史資料保存協会，平成3年

写真でみる濃尾震災，岐阜新聞社，平成3年

新聞記事にみる1891年濃尾地震被害の基礎資料調査，中部圏地震動観測連絡会，平成6年

濃尾大地震の教訓 復刻版，岐阜県教育文化財団歴史資料館，平成8年

岐阜県議会史第一巻，岐阜県，昭和53年

岐阜県史 史料編 近代一，岐阜県，平成10年

岐阜県教育史 通史編近代二・史料編近代二，岐阜県，平成15・10年

そのほか：岐阜日々新聞，扶桑新聞

第2章第2節

愛知県議会議事事務局『愛知県議会議事史』第2巻，愛知県議会議事事務局，1962年

愛知県総務部消防防災課『愛知県災害誌』，愛知県，1970年

稲沢市史編集室『濃尾大地震』，稲沢市史第10編〔謄写印刷〕，同室，1968年

編集委員会『新修 名古屋市史』第5巻，名古屋市，2000年

そのほか、『一宮市史』『稲沢市史』『瀬戸市史』等にも資料や記述が含まれている。

愛知県公文書館『「愛知県庁文書」所収の濃尾地震資料』，愛知県公文書館，2005年

東京大学地震研究所『明治二十四年十月二十八日濃尾地震資料集』1～3，同研究所，1992年

名古屋市防災会議地震対策専門委員会編『濃尾地震文献目録』，名古屋市市民局災害対策課，1978年

羽賀祥二「一八九一年濃尾震災と死者追悼」，『名古屋大学文学部研究論集・史学45』，1998年

日比野元彦「愛知県下における濃尾地震関係史料について」，『愛知県史研究』第6号，2002年3月

日比野元彦「濃尾地震と名古屋城」，『東海近代史研究』第23号，2001年3月

水谷盛光『旧尾張藩北海道開拓小史稿』，志賀の舎，1965年

一宮市編纂掛『丹羽郡大震災と学校』壺，一宮市，1934年

浮世珍聞社編『明治地震詳報』，浮世珍聞，1891年

加藤庸一『大地震の実況』，森島水太郎刊，1891年

新愛知新聞社編『地震聚報』，同社，1891年

「名古屋測候報告」，『明治廿四年 公文雑纂 内務省十五』，国立公文書館所蔵

「震災報告」第1回～第3回(国立国会図書館憲政資料室所蔵品川弥二郎文書)。

愛知県「震害郡市別一覧表」，『明治廿四年 公文雑纂 北海道庁府県三十四』国立公文書館所蔵

北尾鼎「震災目撃出たまゝ記行」，『犬山壮年会雑誌』第34号，1891年12月

丹羽郡役所「震災ニ係ル死傷者及倒家十一月一日迄調概数」，稲沢市教育委員会所蔵

片山逸郎『濃尾震災誌』，泰錦堂，1892年

第三師団監督部『震災破損調書』，『明治廿四年 公文雑纂 内務省十五』，国立公文書館所蔵

『明治二十五年二月 碧海郡赤松村 震害被害調』，安城市赤松町内会所蔵

「名古屋測候所観測及各地景況」，『明治廿四年 公文雑纂 内務省十五』，国立公文書館所蔵

愛知県『震災景況概略』，『明治二十四年 公文雑纂十五』，国立公文書館所蔵

「日本赤十字社震災救護景況報告」，『愛知岐阜震災一件』1891年，明治村所蔵・日赤豊田看護大学保管

中島郡下津村役場『下津村宛震災関係通牒綴』，1892年，稲沢市教育委員会所蔵

宇野俊一校注『桂太郎自伝』，平凡社，1993年

愛知県警察部『明治二十四年十月二十八日 震災記録』，愛知県警察部，1892年

「米人救助謝絶ノ件左案伺」1891年11月3日，『一宮市公報』第129号，1931年11月20日，愛知学泉大学所蔵

杉浦栄三編『蓬左風土誌』，中部日本新聞社，1958年

『愛知県会議事録』，愛知県議会議事事務局所蔵

西春日井郡役所『震災一件綴』，1891年10月28日，愛知県公文書館所蔵

木澤成肅・山羽義彦編『明治震災輯録』，金池堂，1891年

中島郡下津村役場『震災記念碑寄付帳』，1893年10月，稲沢市教育委員会所蔵

「濃尾大地震四十周年記念日に就て」，前掲『一宮市公報』第129号

災害概略シート

項目	内容
災害の名称	1891 濃尾地震
災害の種別	地震
概要	岐阜県北部で発生した地震により岐阜県、愛知県を中心に甚大な被害が発生した。
時代	近世（明治時代）
発生日月日	1891（明治24年）10月28日（6時38分）
主な被災地域	岐阜県、愛知県
被災規模	死者：7,273人 全壊建物14万戸、半壊8万戸以上

謝 辞

「1891 濃尾地震報告書」の作成・出版にあたり、ご協力いただきました下記の方々に感謝申し上げます。

協力者

遠藤正治氏
奥田良二氏
大迫正弘氏（国立科学博物館）
志知安利氏
永井豪氏（岐阜新聞）
中野優氏（米国地質調査所）
松田時彦氏（地震予知総合研究振興会）
村松郁栄氏（岐阜大学名誉教授）

協力機関・団体

愛知県防災局
愛知県史編纂事務局・稲沢市教育委員会
愛知工業大学都市環境学科野々垣研究室
犬山市教育委員会
岩波書店
大垣市立図書館
宮内庁書陵部
京都大学図書館
岐阜新聞社
岐阜県図書館
岐阜県防災局
岐阜県歴史資料館
岐阜大学教育学部
岐阜地方気象台
古今書院
国立科学博物館
国立公文書館
国土交通省中部地方整備局越美山系砂防事務所
国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所
(有)テラパブ
中日新聞社
東京大学地震研究所図書室
東京大学総合図書館
長崎大学附属図書館
名古屋市立大学大学院芸術工学研究科溝口研究室
名古屋大学出版会
西尾市教育委員会
日本赤十字豊田看護大学図書館
日本大学
博物館明治村
本巣市教育委員会
横浜開港資料館

※ 個人、団体五十音順

この報告書は、災害教訓の継承に関する専門調査会の下に設けた小委員会において検討され、平成17年12月7日に開催された同調査会で承認されたものである。執筆は、

(主査)	山岡 耕春	東京大学地震研究所教授
	鈴木 康弘	名古屋大学大学院教授
	西澤 泰彦	名古屋大学大学院助教授
	松田 之利	岐阜市立女子短期大学学長
	北原 糸子	神奈川大学非常勤講師
	戸松 修	岐阜大学応用生物科学部教授
	岡田 洋司	愛知学泉大学コミュニティ政策学部教授

の各委員及び

	羽賀 祥二	名古屋大学文学研究科教授
	金子 隆一	東京都写真美術館

が行い、担当は以下のとおりである。

第1章 災害の概要

第1節 濃尾地震

- 1 濃尾地震の地震学的特徴 (山岡耕春)
- 2 濃尾地震の地表地震断層 (鈴木康弘)
- 3 濃尾活断層系と濃尾地震断層の関係 (鈴木康弘)

コラム 本州を斜めに横切る歪集中帯 (山岡耕春)

コラム 内陸で発生する地震の予測 (山岡耕春)

第2節 濃尾地震による災害

- 1 濃尾地震における建築の被害状況 (西澤泰彦)
- 2 濃尾地震による土砂災害と森林・河川の復旧 (戸松修)

第2章 濃尾地震の被害と救済

第1節 岐阜県の被害・救済 (松田之利)

- 1 地震発生直後の救助活動
- 2 国・県の復旧支援体制
- 3 震災後の社会状況

第2節 愛知県の被害・救済 (岡田洋司)

- 1 地震の発生と愛知県の被害
- 2 地震直後の救援活動
- 3 復興への道

第3節 濃尾地震における災害救援医療 (北原糸子)

- 1 岐阜県における災害医療救援
- 2 愛知県の災害救援
- 3 救援医療の実例から

コラム 濃尾地震と犬山城（松田之利）

第3章 濃尾地震のインパクト

第1節 国の地震防災への影響（北原糸子）

1 震災予防調査会の設置

2 濃尾震災とメディア

コラム 瀬古写真館撮影の濃尾地震の写真について（金子隆一）

コラム 現代から見た震災予防調査会研究計画（山岡耕春）

コラム 濃尾地震の供養碑について（羽賀祥二）

コラム 地震計がなくても揺れがわかる（山岡耕春）

第2節 建築構造物への影響（西澤泰彦）

1 濃尾地震後の建築的対応

2 関東大地震（大震災）における建築的対応の検証

おわりに ～濃尾地震の教訓～（全委員、事務局）

1 地震の原因解明のさきがけ

2 近代日本社会が体験した最初の大地震

3 濃尾地震のインパクト

4 まとめ

資料編

1 参考・引用文献

山岡委員は、報告書全体の確認を行った。

なお、事務局の担当は以下のとおりである。

（事務局）石井 晴雄	内閣府（防災担当）企画官（平成16年7月まで）
久津摩敏生	内閣府（防災担当）企画官（平成17年3月まで）
荒木潤一郎	内閣府（防災担当）企画官
秋元 伸哉	内閣府（防災担当）防災総括担当（平成17年3月まで）
児玉 洋明	内閣府（防災担当）防災総括担当（平成17年3月まで）
安竹 竜一	内閣府（防災担当）防災総括担当
及川 雅仁	内閣府（防災担当）防災総括担当

平成18年3月

内閣府政策統括官（防災担当）

本報告書のとりまとめは、財団法人日本システム開発研究所に委託し、実施した。